

(1) 国内の新型コロナワクチンの接種状況について

出典：首相官邸HP

これまでの総接種回数：**407,410,619**回（令和5年9月12日公表）※1

増加回数：**+126,358**回（令和5年9月5日比）

（うち令和5年5月8日以降接種（3回目以上）：**+122,147**回）

令和5年5月8日以降の接種回数（3回目以上）※2

全体		うち高齢者※3	
回数	接種率	回数	接種率
23,479,929	18.6%	20,146,166	56.1%

接種回数別の内訳※4

	全体		うち高齢者※3		うち小児接種※5		うち乳幼児接種※6	
	回数	接種率	回数	接種率	回数	接種率	回数	接種率
総接種回数	407,410,619	—	174,069,338	—	4,381,687	—	476,814	—
うち1回目接種	104,738,046	80.8%	33,338,065	92.8%	1,766,189	24.1%	179,079	4.0%
うち2回目接種	103,419,075	79.8%	33,262,287	92.6%	1,712,295	23.4%	166,910	3.8%
うち3回目接種	86,590,580	68.8%	32,884,906	91.5%	721,287	9.9%	130,825	2.9%
うち4回目接種以上	112,662,918	—	74,584,080	—	181,916	—		

(2) 令和5年秋開始接種について

- 令和5年度の接種については特例臨時接種を1年延長(～令和6年3月末)し、全ての方に対して秋冬に接種機会を設ける一方で、春夏接種として、高齢者等に限定したオミクロン2価ワクチンによる接種を実施(5月8日～9月19日)。

- **令和5年秋開始接種**については、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の議論を踏まえ以下の通り実施することとしている。

1. 実施期間

- ・ 令和5年9月20日から令和6年3月31日まで

2. 接種の目的

- ・ 重症化予防

3. 接種の対象者

- ・ 生後6か月以上の全ての方

4. 公的関与[※]

- ・ 65歳以上の高齢者等の重症化リスクが高い者を公的関与の対象とする。

5. 用いるワクチン

- ・ オミクロンXBB.1.5対応1価ワクチンを基本とする。
- ・ ただし、令和5年春開始接種と同様、何らかの理由でmRNAワクチンが接種できない方においては、組換えタンパクワクチンの選択肢を確保する。

6. 接種間隔及び接種方法

- ・ 初回接種については、従前の取扱い通り、実施規則においては許容されうる最短間隔として「18日以上の間隔をおいて2回筋肉内注射する」と定め、手引き等において添付文書に記載された内容を標準として定める。
- ・ 追加接種については、前回の接種から少なくとも3か月以上の間隔を空け、1回の接種を行う。

7. 交接種

- ・ 従前の取扱いと同様、前回の接種までに用いたワクチンの種類に関わらず、オミクロンXBB1.5対応1価ワクチンによる追加接種を行うことができることとする。

※ 公的関与とは、被接種者及び保護者に対する努力義務と市町村に対する接種勧奨の義務のことをさす。

特例臨時接種について

現 状

- 『特例臨時接種』は、予防接種法上、「**まん延予防上緊急の必要がある**」と認めるときに実施することができる。
- 令和5年度の接種は、本年3月の審議会において、①感染症の疫学的状況、及び、②ワクチンの効果等に十分なデータが得られていない部分があること等から、『特例臨時接種』の類型を延長することにより、接種を継続することとした。

(令和5年3月7日厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料)

新型コロナウイルス感染症に対する予防接種は開始以来2年以上にわたって市町村を実施主体として行ってきたことから、A類又はB類疾病とした上で、定期接種とする方法が考えられるものの、現時点で、

➤ 感染症の流行は継続しており、**感染症の疫学的状況、ワクチンの有効性の持続期間等には十分なデータが得られていない部分があること**

➤ 基本方針部会の議論において、2023年度は現在接種を行っている全ての年齢の者に接種を行うこととされたこと

等から、2023年度においては特例臨時接種の類型を延長することにより、接種を継続することとしてはどうか。その際、2024年度以降に予防接種を継続する場合には、安定的な制度の下で実施することを検討することが適当である。

- 昨年度までには、以下のような知見が確認されていた。
 - ① 感染症の疫学的状況としては、デルタ株と比較してオミクロン株の重症化率等が低下していること
 - ② ワクチンの効果としては、ワクチンによる重症化予防効果が確認されていることその後、以下のような知見等が得られた。
 - ① 感染症の疫学的状況としては、XBB系統の重症度の上昇の兆候はなく、公衆衛生上のリスク増加の根拠はないとされたこと
 - ② ワクチンの効果等としては、i) ワクチンによる重症化予防効果の持続期間が1年以上持続すること
ii) 国民の多くがウイルスに対する免疫を保有した状態にあること
- その他、重症化予防等の効果がある抗ウイルス薬が複数利用可能になり、一般流通も行われるなど、新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況においても有利な状況変化が生じている。
- なお、感染症法においては、本年5月の時点で、病原性が大きく異なる変異株の出現等の科学的な前提が異なるような特段の事情は生じていないことが確認されたとして、新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」となり、現在もその位置付けについて変更が予定される状況にない。

事務局案

- 令和6年度以降、新型コロナウイルス感染症の「まん延予防上緊急の必要がある」と認められる状況にはないと考えられるため、『特例臨時接種』を今年度末で終了し、安定的な制度の下で接種を継続することとしてはどうか。

接種プログラムに係る各論点について①

現 状

【新型コロナウイルス感染症の疫学的状況】

- 現時点では、オミクロンの亜系統であるXBB系統が主流の流行株となっているが、オミクロンは、新たな亜系統や組換え体を生じているものの、ウイルスの重症度等は変化しておらず、デルタ株流行期と比較して全ての年代で重症化率及び致死率が低下しており、特に高齢者や基礎疾患を有する重症化リスクの高い者においては重症化をもたらす恐れがある一方で、それ以外の者においては重症化等の割合は少ない状況である。
- こうした状況は1年半以上にわたって続いており、「抗原性が徐々に変化するものの、オミクロンと同様の重症度のウイルスの流行が継続すること」を想定した対応をとっている。

【ワクチンの効果等に関する知見】

- ワクチンの有効性については、オミクロン株流行下では、感染予防・発症予防効果の持続期間等は2～3か月程度と限定的である一方、重症化予防効果は1年以上一定程度持続することに加えて、流行株に合わせたワクチンの追加接種を行うことで、追加的な重症化予防効果等が得られるとの報告がある。
- 現時点で、国民の多くがワクチン及び感染による免疫を保有する状態となっているとする報告がある。

【ワクチン安全性に関する知見等】

- 医師や製造販売業者等からの副反応疑い報告や、その他国内外の情報等も踏まえ、副反応検討部会等において継続的に安全性の評価が実施されており、現時点において、ワクチン接種によるベネフィットがリスクを上回ると考えられ、ワクチンの接種体制に影響を与える重大な懸念は認められず、引き続き国内外の情報を収集しつつ、新型コロナウイルスワクチンの接種を継続していくこととしてよいとされている。

事務局案

論点1 接種の目的について

- 令和6年度以降の接種の目的は、重症化予防と考えてよいか。

論点2 接種の対象者について

- 令和6年度以降の接種の対象者は、65歳以上の高齢者等の重症化リスクの高い者と考えるよいか。

接種プログラムに係る各論点について②

現 状

【新型コロナウイルス感染症の流行状況】

- 感染症の流行周期は明らかでなく、年に複数回の感染拡大がみられるが、特に年末年始において、比較的大きな感染拡大がみられる。

【免疫の保有状態及びワクチンの有効性に関する知見】（再掲）

- ワクチンの有効性については、オミクロン株流行下では、感染予防・発症予防効果の持続期間等は2～3か月程度と限定的である一方、重症化予防効果は1年以上一定程度持続することに加えて、流行株に合わせたワクチンの追加接種を行うことで、追加的な重症化予防効果等が得られるとの報告がある。
- 現時点で、国民の多くがワクチン及び感染による免疫を保有する状態となっているとする報告がある。

【その他ワクチンを取り巻く状況】

- 重症化予防等の効果がある抗ウイルス薬が複数利用可能になり、一般流通も行われるなど、新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況においても有利な状況変化が生じている。

事務局案

論点3 ワクチンの接種のタイミングについて

- オミクロンがデルタ株と比較して重症度が低下していることや、国民の多くが新型コロナウイルスに対する免疫を保有していること、ワクチンの重症化予防効果が1年以上、一定程度持続することに加えて、新型コロナウイルス感染症が年末年始に比較的大きな感染拡大が見られること及びワクチンを取り巻く状況の変化等も考慮し、接種のスケジュールについては、年1回の接種を行うこととし、接種のタイミングは秋冬とすることとしてはどうか。

接種プログラムに係る各論点について③

現 状

【用いるワクチンについて】

- ワクチンに含むウイルス株については、令和4年秋冬の追加接種において、オミクロン株の成分を含むワクチンを用いることとした。その後、流行の主流がBA.5系統からXBB系統に移り変わったことや、ワクチンの有効性に関する科学的知見を踏まえ、令和5年秋冬の接種には最も抗原性が一致したワクチンを選択することとした。
- 何らかの理由でmRNAワクチンが接種できない方において、組換えタンパクワクチンの選択肢を確保している。

事務局案

論点4 用いるワクチンについて

- ワクチンに含むウイルス株の検討に当たっては、流行の主流であるウイルスの状況やワクチンの有効性に関する科学的知見を踏まえて選択することとし、当面の間、毎年見直すこととしてはどうか。
- 新型コロナワクチンの接種に用いるワクチンについては、様々なモダリティのワクチンの開発状況等も考慮しつつ、有効性、安全性、費用対効果等を踏まえて検討することとしてはどうか。

オミクロン株XBB.1.5対応 1価ワクチンの配送スケジュール

ファイザー社12歳以上用ワクチン (XBB.1.5)			ファイザー社小児(5歳~11歳)用 1価ワクチン (XBB.1.5)			ファイザー社乳幼児(6か月~4歳)用 1価ワクチン (XBB.1.5)			モデルナ社 1価ワクチン (XBB.1.5)		
クール名称	配送週・日	累計の ワクチン量	クール名称	配送週	累計の ワクチン量	クール名称	配送週	累計の ワクチン量	クール名称	配送週	累計の ワクチン量
第1クール PFXBB_01 約175万回分	9/4 週	約175万回	第1クール PFcXBB_01 約7万回分	9/18 週	約7万回	第1クール PFbXBB_01 約7万回分	9/25 週	約7万回	第1クール MDXBB_01 MDcXBB_01 約300万回分	9/25 週	約300万回
第1-2クール PFXBB_01-02 約87.5万回分	9/10	約263万回	第2クール PFcXBB_02 約26万回分	9/25 週	約33万回	第2クール PFbXBB_02 約16万回分	10/2 週	約23万回	第2クール MDXBB_02 MDcXBB_02 約200万回分	10/2 週	約500万回
第2クール PFXBB_02 約525万回分	9/11 週	約788万回	第3クール PFcXBB_03 約4万回分	10/2 週	約37万回				第3クール MDXBB_03 MDcXBB_03 残余	10/9 週	約500万回
第2-2クール PFXBB_02-02 約87.5万回分	9/17	約875万回									
第3クール PFXBB_03 約350万回分	9/18 週	約1,225万回									
第3-2クール PFXBB_03-02 約262.5万回分	9/18・23・ 24	約1,488万回									
第4クール PFXBB_04 約430万回分	9/25 週	約1,918万回									
第5クール PFXBB_05 約22.5万回分+残余	10/2 週	約1,941万回									
第6クール PFXBB_06 残余	10/9 週	約1,941万回									

ファイザー社1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチンの有効性・安全性

PMDA及び厚生労働省は、薬事・食品衛生審議会提出資料において、以下の方針に沿って、ファイザー社の1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチンを、**2価ワクチンと同様に初回・追加接種として承認して差し支えない**と判断した。

ファイザー社試験（薬事・食品衛生審議会提出資料、抜粋）

ファイザー社の非臨床データ（抜粋・要約）：

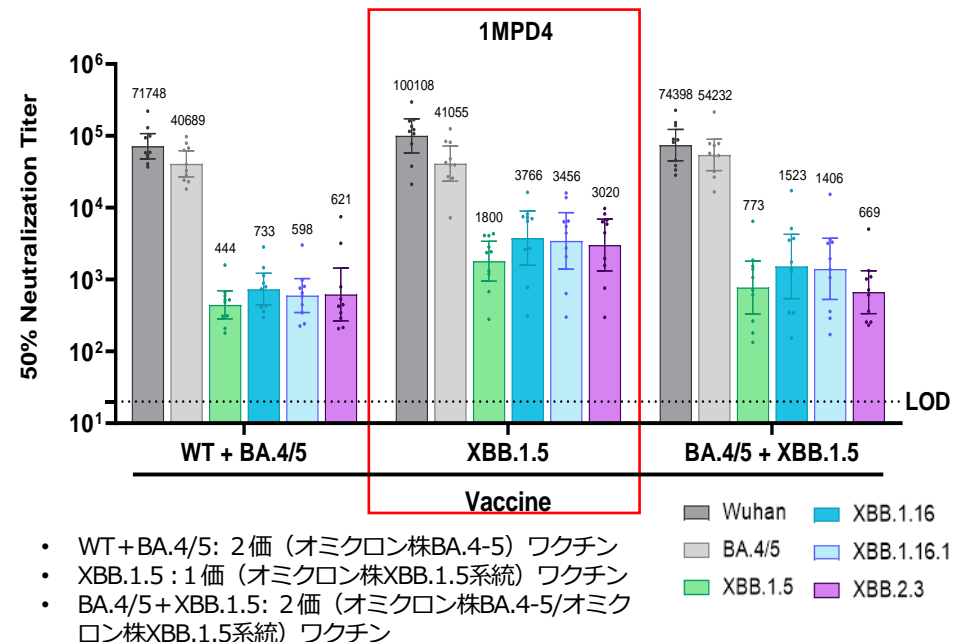
- 追加免疫（4回目接種）として1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチン、2価（起源株/オミクロン株BA.4-5）ワクチン又は2価（オミクロン株BA.4-5/オミクロン株XBB.1.5）ワクチンを投与した1ヵ月後の中和抗体価の測定が行われ、1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチンを投与したマウスでは、オミクロン株XBB系統（XBB.1.5、XBB.1.16、XBB.1.16.1、XBB.2.3）に対して中和抗体の誘導が認められた（図1）。

PMDA及び厚生労働省の判断（抜粋・要約）：

- 審査方針に従い、ファイザー社の1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチンについて、提出された品質データ及び非臨床データから、品質データについては特段の問題が認められないこと、非臨床データについては1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチンの接種によるオミクロン株XBB系統に対する中和抗体が誘導されたことを確認した。
- 以上を踏まえ、ファイザー社の1価（オミクロン株XBB.1.5系統）ワクチンを承認して差し支えないと判断した。

（非臨床データ）

図1：追加免疫後の中和抗体価（GMT）（ファイザー社製ワクチン）



〈医薬局医薬品審査管理課「新変異株対応のコロナワクチンの評価方針について」（令和5年7月31日）抄、下線追加〉

（オミクロン株1価ワクチンへの変更における有効性・安全性の考え方）

- 安全性については、これまで実施されてきた臨床試験における安全性に係るデータや使用実績（接種後の副反応の発現状況等）から、起源株1価ワクチンとオミクロン株2価ワクチンの安全性プロファイルには大きな差が無いことが確認されている。
- 上記を踏まえると、1価/2価の違い、起源株/オミクロン株の違いはワクチンの安全性プロファイルに大きな影響を及ぼさないと考えられる。
- 従って、オミクロン株1価ワクチンの安全性プロファイルも既承認の製剤の安全性プロファイルと基本的には同様であり、安全性に特段の懸念はないものと予見することは可能
- 有効性については、オミクロン株2価ワクチンの臨床試験において中和抗体価の上昇がみられ有効性が確認されていること、オミクロン株に対する有効成分を含むワクチンの非臨床データからヒトでの免疫応答について一定の予測が可能であることが確認されていることを踏まえると、非臨床試験における中和抗体価のデータに基づき検討可能

モデルナ社 1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンの有効性・安全性

PMDA 及び厚生労働省は、薬事・食品衛生審議会提出資料において、以下の方針に沿って、モデルナ社の 1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンを、**2 価ワクチンと同様に追加接種として承認して差し支えない**と判断した。

モデルナ社試験（薬事・食品衛生審議会提出資料、抜粋）

モデルナ社の非臨床データ（抜粋・要約）：

- 追加免疫（3 回目接種）として 1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチン、2 価（起源株/オミクロン株 BA.4-5）ワクチン又は 2 価（オミクロン株 BA.4-5/オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンを投与した 2 週間後の中和抗体価の測定が行われ、**1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンを投与したマウスでは、オミクロン株 XBB 系統（XBB.1.5、XBB.1.16、XBB.2.3.2、EG.5.1）に対して中和抗体の誘導が認められた**（図 1）。

PMDA 及び厚生労働省の判断（抜粋・要約）：

- 審査方針に従い、モデルナ社の 1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンについて、提出された品質データ及び非臨床データから、品質データについては特段の問題が認められないこと、非臨床データについては 1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンの接種によるオミクロン株 XBB 系統に対する中和抗体が誘導されたことを確認した。
- 以上を踏まえ、モデルナ社の 1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチンを承認して差し支えないと判断した。

（非臨床データ）

図 1：追加免疫後の中和抗体価（GMT）（モデルナ社製ワクチン）

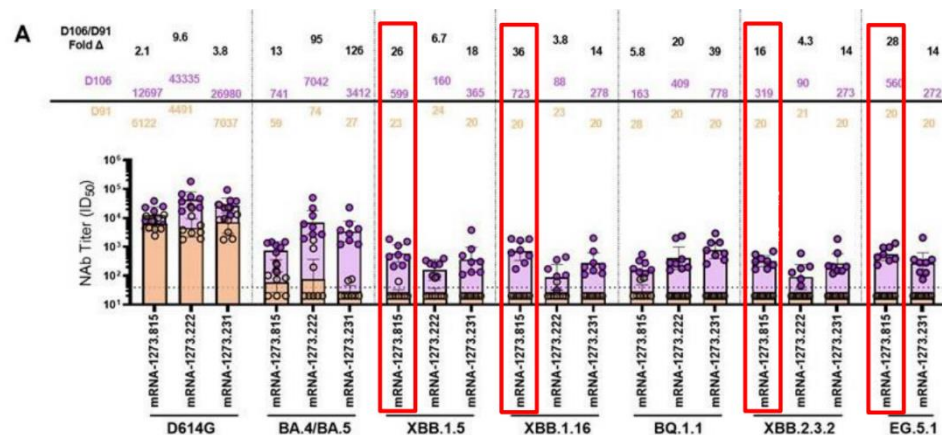


図 1：追加免疫後の中和抗体価（GMT）（モデルナ社製ワクチン）

橙：接種前 紫：接種後

mRNA-1273.815：1 価（オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチン

mRNA-1273.222：2 価（起源株/オミクロン株 BA.4-5）ワクチン






mRNA-1273.231：2 価（オミクロン株 BA.4-5/オミクロン株 XBB.1.5 系統）ワクチン

〈医薬局医薬品審査管理課「新変異株対応のコロナワクチンの評価方針について」（令和5年7月31日）抄、下線追加〉

（オミクロン株 1 価 ワクチンへの変更における有効性・安全性の考え方）

- 安全性については、これまで実施されてきた臨床試験における安全性に係るデータや使用実績（接種後の副反応の発現状況等）から、**起源株 1 価ワクチンとオミクロン株 2 価ワクチンの安全性プロファイルには大きな差が無いことが確認されている。**
- 上記を踏まえると、**1 価/2 価の違い、起源株/オミクロン株の違いはワクチンの安全性プロファイルに大きな影響を及ぼさないと考えられる。**
- 従って、オミクロン株 1 価ワクチンの安全性プロファイルも既承認の製剤の安全性プロファイルと基本的には同様であり、**安全性に特段の懸念はないものと予見することは可能**
- 有効性については、オミクロン株 2 価ワクチンの臨床試験において中和抗体価の上昇がみられ有効性が確認されていること、オミクロン株に対する有効成分を含むワクチンの非臨床データからヒトでの免疫応答について一定の予測が可能であることが確認されていることを踏まえると、非臨床試験における中和抗体価のデータに基づき検討可能

初回接種に係る諸外国の状況（2023年春以降）

国・地域	発出機関	接種タイミング	初回接種を推奨される者※1	初回接種を接種し得る者	使用ワクチン※2	備考
 米国	CDC	2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上の全ての未接種者 	—	XBB対応型1価ワクチン等	2023/9/12発表 年1回の接種も示唆
 英国	NHS	2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上の重症化リスクの高い未接種者※4 	—	XBB対応型1価ワクチン等	2023/9/4発表
 カナダ	NACI	2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 5歳以上の未接種者 	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月—4歳児 	XBB対応型1価ワクチン等	2023/9/12発表
 フランス	保健省	2023年春	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月—4歳の免疫不全の未接種児 5歳以上の未接種者 	—	従来型ワクチン等※5	2023/4/27発表
 ドイツ	STIKO /保健省	2023年春～ 年1回へ移行	<ul style="list-style-type: none"> 生後6ヶ月以上の重症化リスクが高い基礎疾患を有する未接種者 18歳以上の健常者で未接種者 	—	従来型ワクチン等	2023/5/25発表
 イスラエル	保健省	2022年秋	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上の未接種者 	—	2価ワクチン等	2022/9/4発表 2023/4/18更新
 国際連合	WHO	(記載なし)	<ul style="list-style-type: none"> 18歳以上の未接種者 6か月以上の免疫不全者、重症化リスクの高い基礎疾患を有する者、高度肥満の者 妊婦 医療従事者 	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月—17歳の健康な小児 	2価ワクチンが従来型に比べて優れる可能性 2023年秋接種にはXBB対応型1価ワクチン	2023/3/30左記の定期的な接種プログラムに関する推奨発表、2023/5/18秋接種について発表
 (参考) 日本	厚労省	2023年春	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上のワクチン未接種者 	—	2価ワクチン等	2023/3/7発表
		2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上の重症化リスクの高い未接種者 	<ul style="list-style-type: none"> その他の者 	XBB対応型1価ワクチン	2023/8/9発表

※1 条件を満たす初回シリーズ未接種者。接種対象者の具体的範囲については各国個票を参照。

※2 mRNA以外のワクチンに関しては各国個票を参照。年齢によって従来型ワクチンのみ使用可能な場合がある。

※4 生後6か月—4歳児はprimary dosesとして2回接種。5歳以上の者は原則として接種歴に関係なく秋開始接種プログラムにおいて1回のみ接種。

※5 30歳以上の者に対してはモデルナ社オミクロン株対応2価ワクチンも承認されている。

Source: FDA, FDA, CDC, ACIP, NHS, UKHSA, JCVI, NACI, NACI, フランス保健省, HAS, ドイツ保健省, STIKO, イスラエル保健省, WHO, 厚生労働省

追加接種に係る諸外国の状況 (2023年春以降) ①

国・地域	発出機関	接種タイミング	接種を推奨される者※1	接種し得る者※1	使用ワクチン	備考
 米国	CDC	2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 前回接種から2か月以上経過した生後6か月以上の者 	<ul style="list-style-type: none"> 左記で接種した者のうち、さらに追加接種として、中等度から重度の免疫不全者 	XBB対応型1価ワクチン	2023/9/12 発表
 英国	NHS	2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等 	—	XBB対応型1価ワクチン等	2023/9/4 UKHSAより発表
 カナダ	NACI	2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 生後6か月以上の前回接種又は感染から6ヶ月以上経過した者※1 	—	XBB対応型1価ワクチン等	2023/9/12 NACIより発表
 フランス	保健省	2023年春	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等※1 	<ul style="list-style-type: none"> 追加接種希望者 	2価ワクチン等 (年齢に応じ選択※2)	2023/4/27 保健省HPで情報発信※3
		2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等※1 	—	(未発表)	
 ドイツ	STIKO / 保健省	2023年春～年1回へ移行	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等※1 	—	変異株対応ワクチン (2価ワクチン含む)	2023/5/25 STIKOより発表
 イスラエル	保健省	現在の接種 ※時期を明示していない	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等※1 	<ul style="list-style-type: none"> その他全ての者 	2価ワクチン等	国民に年1回定期的に提供すると発表 ※前回接種等から3ヶ月経過後
 国際連合	WHO	(記載なし)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ①高齢者、重大な併存疾患等を有する者 →6～12か月後の追加 ②健康な50～60歳までの成人等→定期的には推奨しない ③健康な小児(生後6か月～17歳)→定期的には推奨しない </div>		2価ワクチンが従来型に比べて優れる可能性 秋接種にはXBB対応型1価ワクチンを推奨	2023/3/30 左記の定期的な接種プログラムに関する推奨発表、2023/5/18秋接種について発表
 (参考) 日本		2023年春	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等※1 	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者 5～11歳の小児 	2価ワクチン等	
		2023年秋	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者及び重症化リスクの高い者等※1 	<ul style="list-style-type: none"> その他すべての者 	XBB対応型1価ワクチン	

※1 接種対象者の具体的範囲については、次ページを参照。原則として接種歴に関係なく秋開始接種プログラムにおいて1回のみ接種。

※2 年齢によっては従来型ワクチンのみが利用可能な場合がある。

※3 現時点では、保健省HPに記載があるのみで正式な決定かどうかについては情報が得られない。

Source: FDA, CDC, ACIP, NHS, UKHSA, JCVI, NACI, HAS, フランス保健省, ドイツ保健省, STIKO, DoctorsOnly, WHO

追加接種に係る諸外国の状況（2023年春以降）②

	春接種		秋接種	
	接種が推奨される者	接種し得る者	接種が推奨される者	接種し得る者
 米国	該当者なし	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上（前回接種から4か月以上） 中等度から重度の免疫不全者（前回接種から2か月以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 前回接種から2か月以上経過した生後6か月以上の者 	<ul style="list-style-type: none"> 左記で接種した者のうち、さらに追加接種として、中等度から重度の免疫不全者
 英国	<ul style="list-style-type: none"> 75歳以上の者 介護施設入居者 5歳以上の免疫不全者 	—	<ul style="list-style-type: none"> 重症化リスクが高い以下の者 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者向け介護施設入居者及びスタッフ 65歳以上の者 生後6か月～64歳で臨床的リスクを持つ者 医療施設及び社会福祉施設で働く者 12～64歳で家庭で免疫不全者と接触する者 16～64歳の介護者 	—
 カナダ	<ul style="list-style-type: none"> 18歳以上で追加接種（3回目）未接種者 65歳以上の者や基礎疾患を有する者等の重症化リスクが高い2022年秋の追加接種未接種者 	<ul style="list-style-type: none"> 5～11歳の3回目接種未接種者 12～64歳の2022年秋の追加接種未接種者 65歳以上の者、基礎疾患を有する者のうち、2022年秋の追加接種から6か月以上が経過した以下の者 <ul style="list-style-type: none"> 80歳以上の者 高齢者施設及びその他のケア施設に入居の者 18歳以上の免疫不全者 65～79歳の未感染者 	<ul style="list-style-type: none"> XBB対応型1価ワクチンの適応として承認された年齢層（生後6ヶ月以上）に属し、前回接種又は感染から6か月以上が経過したワクチン接種歴のある者 	—
 フランス※1	<ul style="list-style-type: none"> 80歳以上の者 免疫不全者 介護施設入居者 その他医療従事者との共同意思決定に基づく医学的事由を有する者 	<ul style="list-style-type: none"> 追加接種希望者 	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の者 生後6か月以上で重症化リスクが高くなる併存症を持つ者 免疫不全者 ・妊婦 医療施設及び長期療養施設入居者 医療従事者との共同意思決定に基づく医学的事由を有する者 高リスク者と同居又は定期的に接触する者（医療・社会福祉従事者を含む） 	未発表
 ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> 最終接種又は感染から12か月以上経過した、重症化リスクが高い者 <ul style="list-style-type: none"> 60歳以上の者 介護施設入居者 妊婦 生後6か月以上の重症化リスクの高い基礎疾患を持つ者 ワクチンの免疫効果が無い者と同居している家族等 最終接種又は感染から12か月以上経過した医療介護従事者 	※ドイツについては、2023年以降の接種について終了時期を設けておらず、一定程度長期的な接種プログラムとして示しているものと考えられる。なお、接種の時期については秋の接種が望ましいとしている。		
 (参考) 日本	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者（65歳以上） 基礎疾患を有する者（5～64歳） 	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者等 5～11歳の小児 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者（65歳以上） 基礎疾患を有する者（64歳以下） 	左記以外の全ての者

※1 フランスの秋接種の推奨範囲は現時点でHAS (医薬品の評価機関)の推奨であり、保健省の推奨ではない。